

隧道を抜けて、宝さがしにおいでよ！ 水源の里 曲淵・野河内

隧道を抜けて、宝さがしにおいでよ！ 水源の里 曲淵・野河内

(2015年12月～2016年5月) 山岳会有志による活動

古の往還尾根道を再生するため、福岡市早良区野河内から自然観察路に至る尾根道ルート of 整備を実施しました。整備した尾根道に関する情報を公開して、このルートに関する利用記録が個人のブログや登山専門サイトに取り上げられる事も増えて来ました。「野河内～井原山～水無～野河内林道～野河内」の周回コースかある程度受け入れられつつあると思われます。

尾根道整備目的のひとつは、自然林・雑木林の中をある程度の距離歩いて井原山を周回したいと考えるハイカー・登山者に、野河内林道以外の選択肢を提供するという点にありました。その意味では、ハイカー・登山者の目的や嗜好、更には力量によって決まる「選択の幅」を広げたという事が言えます。



(2016年5月～2018年3月) ボランティア団体『野河内往還の会』の活動

これまでは、尾根道整備の道筋を付けるために、山岳会の有志による整備活動でしたが、整備活動の原点に立ち返って考えると、福岡市民の水源の一つである曲淵ダムの重要性、それを涵養する脊振山系の森林の現状、動植物の分布状況、沢や谷の状態、登山道の利用状況、更には曲淵地域・野河内溪谷流域の水源林などに対して市民が楽しく関わられるような取り組みが必要と考えました。尾根道整備を単なるハイカー・登山者の利便性向上の問題に終わらせず、曲淵地域の自然・生活に福岡市民が楽しく関わられるような機会を作り出して行きたいと思えます。



水源の森を観察しながらハイキング・登山を楽しむ事を通して、その保全のために自分も楽しも関わりたいという感情・問題意識を醸成する一つの機会とするために、ボランティア団体『往還の尾根道と野河内の自然環境を整備する登山者と市民の会』(愛称：野河内往還の会)を立ち上げました。自宅でも楽しめて地域の整備活動にも参加できるような楽しい「ワークショップ型」の提案を続けています。

2016年度の事業として、整備した尾根道の登山口周辺の竹林を伐採し、落葉広葉樹とアジサイを植栽し、彩のある自然観察路を整備する事に取り組んでいます。苗木を購入して植栽するのではなく、アジサイの挿し木ワークショップ・鉢上げワークショップ・植樹ワークショップと言う市民参加型にこだわりました。この取り組みは、地元自治会や地域住民の皆さんからも期待を寄せられています。

(詳細は <http://souzan.fuyu.gs/nogouchi/nogouchi.html> 参照ください)

(2016年) 夢アイデア事業として ーアジサイと落葉広葉樹に溢れる水源の里作りー

尾根道・登山口周辺の整備事業と並行して、曲淵・野河内地区全体をアジサイとヒガンバナに溢れる彩のある水源の里として整備したいと考えています。

並行して、曲淵・野河内周辺の主要登山道・ハイキングコースを点検・整備する取り組み、旧三瀬街道と街道にまつわる歴史遺構の整備と、それらを結びつけた市民ハイキングやワークショップなどを提案・実施して行きます。

今後実施したい夢アイデア事業

- ・引き続き市民によるアジサイの挿し木・植樹プロジェクト (隧道を抜けたら、アジサイが待ってる)
- ・史跡・ハイキングコース・溪谷・食・産品をホームページで一元化して公開
- ・整備済みハイキングコースを利用した市民ハイキングの開催
- ・地元の伐採竹・間伐材を利用したグリーンウッドワークのワークショップ開催
- ・竹や木を使った“遊び”のワークショップ開催

限界集落化しつつある地域を元気にし、都市部市民に当地の自然・環境・観光的な魅力を伝えて行きたいと思えます。

古き往還の尾根道を歩く

古き往還の尾根道を歩く

“野河内から林道野河内線を歩かずに、井原山まで歩ける尾根通しの道は整備できないか？”という曲淵地区からの声を耳にしたのが発端でした。

かつては市民の身近な探勝地として訪れる人々で賑わった野河内溪谷ですが、夏の沢登りを除けば、市民の関心は瑞梅寺をベースとした水無鍾乳洞～井原山のハイキングやミツバツジ・オオキツネノカミソリ鑑賞へシフトして来りました。

野河内溪谷沿いに拓かれた林道の単調な歩きや、そこへ入り込むバイクを敬遠して登山者やハイカーの足が遠退いている事も考えられます。

野河内溪谷の自然を活かしながら、もっと多くの市民が楽しめるフィールドにできないかと、地元の方々も動き出されています。日頃からお世話になっている山城であり、週末に継続した整備活動が行えるという事から、新年に尾根道の整備を計画しました。

①646m～693mの尾根を利用する。

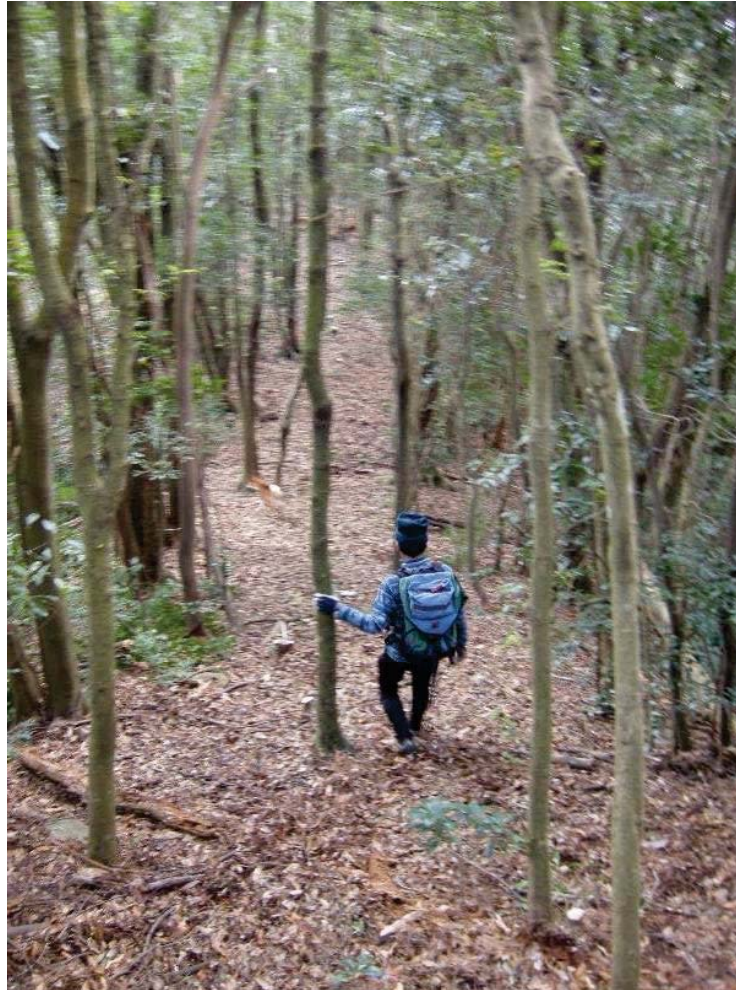
②野河内溪谷ベンチ周辺に取付き点を一箇所作る。

③主尾根の山作業道を生かして一般登山者向けの安全な取付き点を一箇所作る。

④植林地に踏み込むルートは極力避けて、尾根を忠実にトレースする。

⑤下草、ルート上の低木の伐採、倒木の片付け、無用なテープの片付けを行う。

⑥取付き二箇所、その合流点、自然歩道との合流点に標識板を設置する。



⑦春山のシーズンに間に合わせる。

⑧会のHPにルート情報を載せて、一般の利用を広げる。

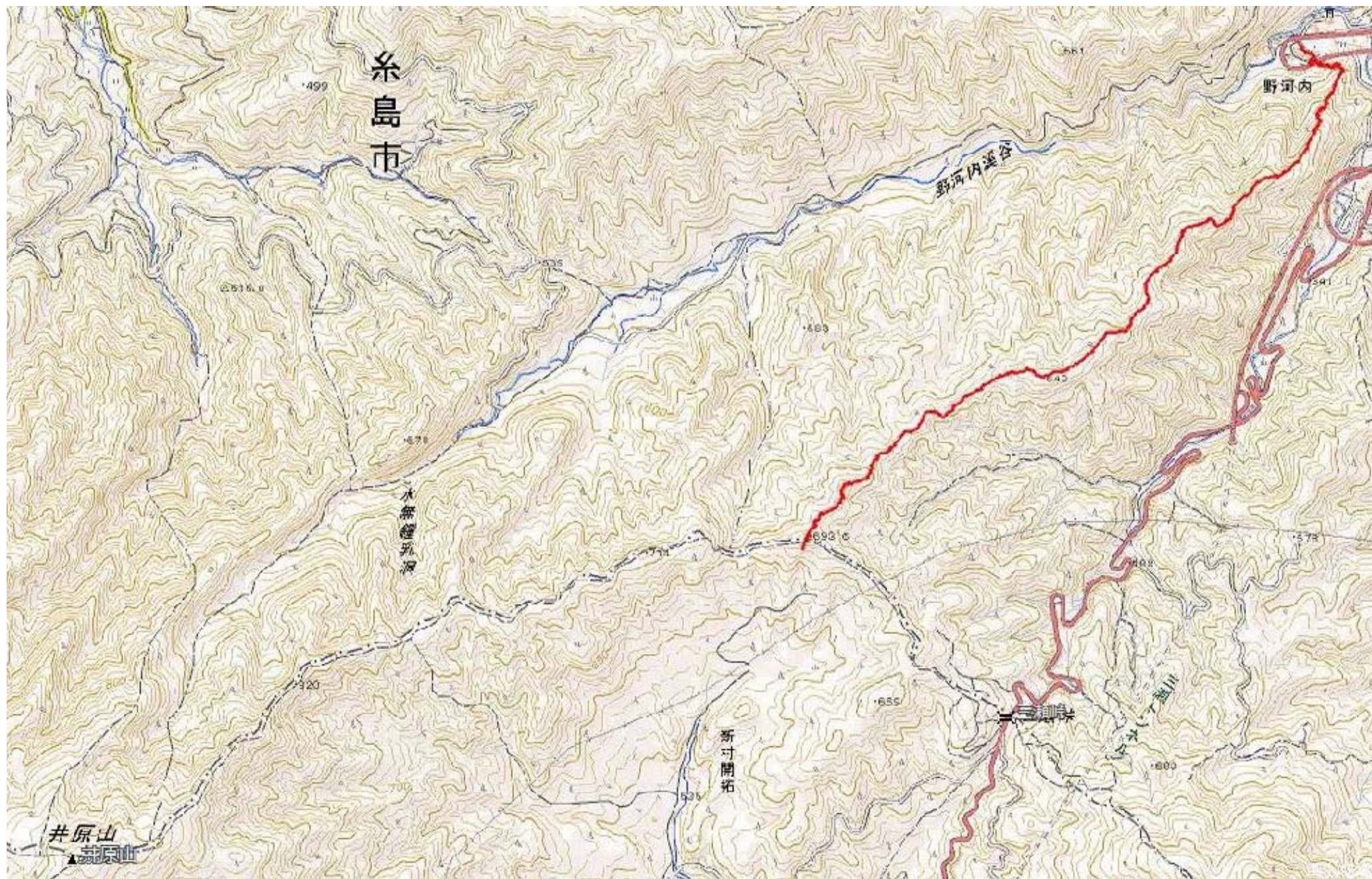
1月9日に尾根下見を兼ねて初回の整備行動。尾根はしっかりしており、自然林も豊富で歩きやすい事が判りました。

2回目の作業より会員の協力が得られるようになった事で、通算6日目となる2月11日に尾根ルート上の障害物を取り除き、自然歩道になぎました。

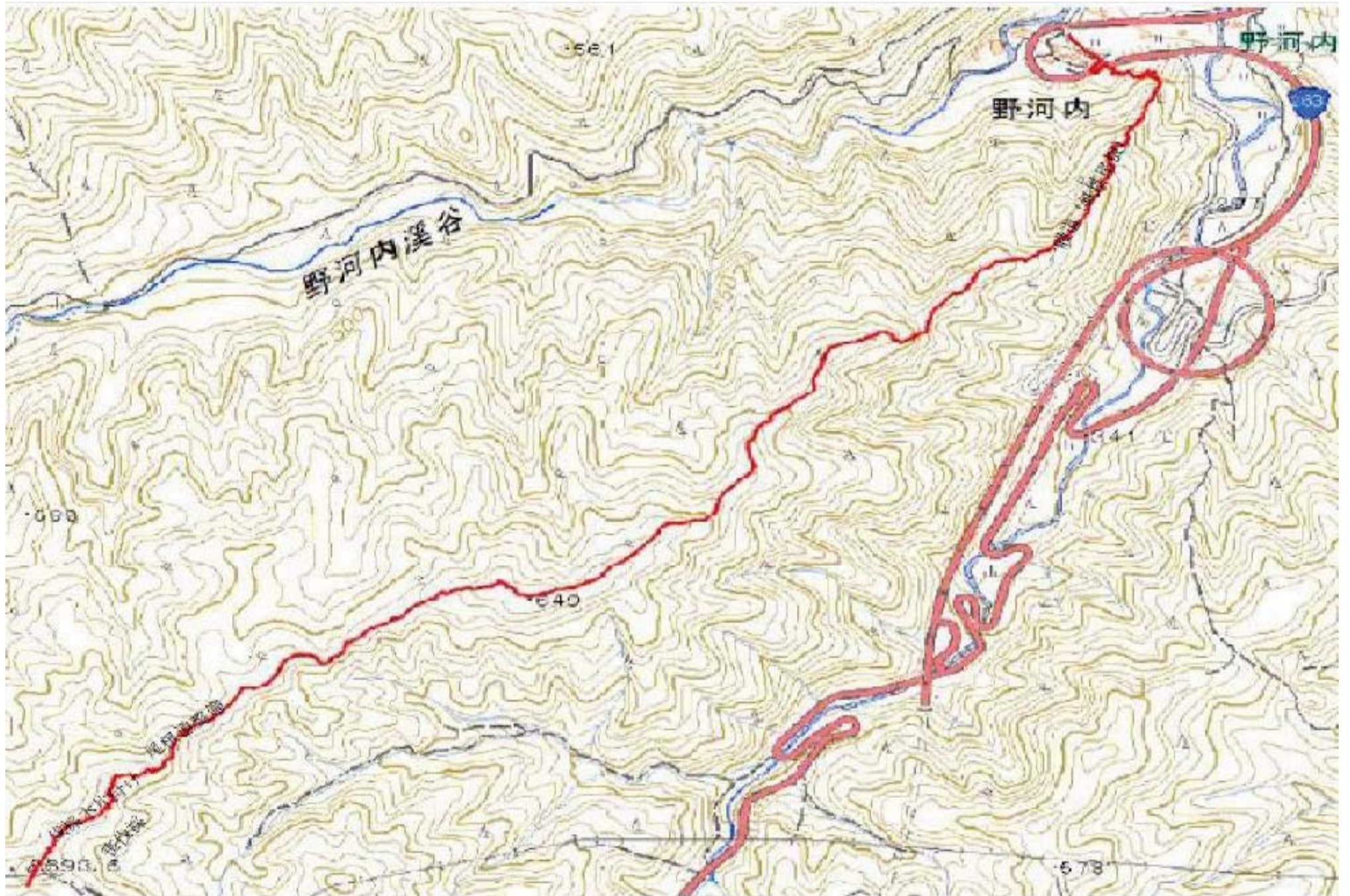
特段の呼びかけは行わなかった今回の作業に対して、三々五々駆け付けて戴いた皆さん、本当にありがとうございました。自分が復活させた道として末長くご利用いただきたいと思えます。



野河内溪谷・自然観察路・三瀬峠・井原山と尾根道の関係



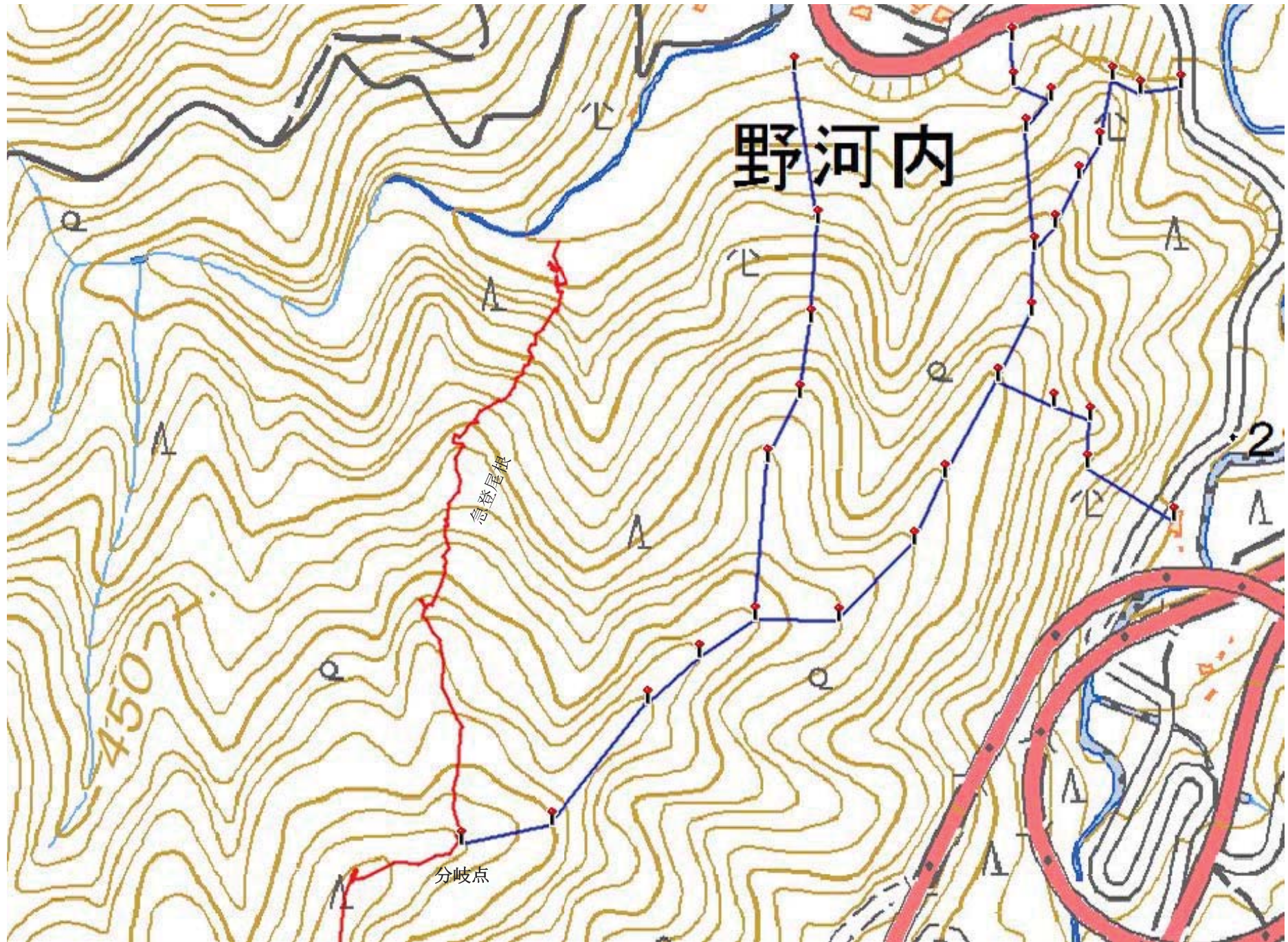
整備尾根道（鉄塔尾根）



主尾根取り付き点 (263号線脇の取り付き点は水はけが悪く藪化していてポイ捨てのゴミが散乱している！)



野河内ベンチより急登尾根～分岐（下部取り付きの選択枝は鉄塔整備道二本を含めて幾つかあるが溪谷のベンチからの支尾根に決定）





263号線脇の取り付け点



尾根取り付きの標識版



滑りやすい竹林の登り



竹林を抜けた所で右に折れる



ヒノキの若木の中を進む



鉄塔整備道の階段に合流



振り返り左手階段



振り返り尾根道



鉄塔に続く階段



正面に鉄塔



右手植林・左手自然林



幾つかの支尾根が合流



自然林のトンネルとしっかりした尾根道



野河内ベンチからの支尾根との分岐標識



唯一の金山ビューポイント（休憩地） ※ツツジ散在します



展望は無いが、広葉樹の自然林の中の緩やかな登りが満喫できる



649M



植林帯が右手から左手に変わる



ツバキの花を踏みながらの尾根歩き



時折、井原山が見えるようになる



杉の植林帯をぬけると、、、



笹が生い茂る最後の登り

三角点



← (左) 三瀬峠へ



(右) 井原山へ →

自然歩道・整備道の分岐に標識設置
(2016/03/05)

ベンチの標識板からの急坂尾根（赤）と鉄塔尾根（緑）の関係





たきやま荘前の橋



野河内溪谷と林道野河内線の分岐



ベンチ



ベンチ周辺は綺麗に伐採されている

野河内溪谷ベンチ横の尾根取り付き点に標識設置。標識から直ぐに登りとなる。滑りやすい急坂のため、主に登り用として使いたい。 →



設置した概念図・尾根取り付きの標識版



標識の裏から直ぐに登り出す



あまり踏まれていなので、浮石・腐葉土・落ち葉・立ち枯れ木に注意が必要。

要所に補助ロープを設置した。



自然林の中の急登が続く。浮石・立ち枯れ木・落ち葉に注意！



急登の連続で息が切れてきたころ、右手に植林が現れる。もうひと頑張り。



ヒノキの植林帯との境界をしばらく行くと鉄塔からの尾根道との分岐点。5分で休憩地。



ベンチ周辺のアジサイ



炭焼き窯跡



尾根道上のイノシシの寝床

今後の課題

炭焼き窯跡への観察路（仮称）への示道標
 中間の休憩地に、杉丸太のベンチ荷上げ・設置
 急登尾根取り付き（伐採木の撤去と登山道の明確化）
 コース上の浮石・立ち枯れ木の整備
 国道脇の藪の伐採とゴミ拾い
 国道脇の水はけ改良（間伐木を利用した木道の設置が考えられるが、地権の問題もあり、個人での現状変更は困難）
 年2回程度の継続整備（春先と秋口）



溪谷整備を継続しておられる地元の方々からお話を聞かれるのぼろ編集チーム



追加のミッション
休憩地に伐採杉のベンチを作ります。皮を剥いで、防水処理して、、、でも結構重い！！



お疲れさん会での猪鍋（鍋二つが空になりました）。



5日に向けて駐車場でテ泊。
呑みすぎました。



ベンチの様子



西日本新聞社出版部から「季刊のぼろ」編集チームのYさんも一緒に歩いて戴きました。

自然歩道との合流点に標識を。
杭の頭をハンマーで打ち込んで、“ストレス？”解消。



杉丸太のベンチを休憩地に設置完了 (2016/03/26)



No.	月 日		集合	作業	場 所	作業内容	参加者	サポーター
1	1月9日	実施	8:00	13:00	野河内入渓地～植林地	急登尾根の下見と伐採整備	1	1
2	1月10日	実施	8:00	13:00	植林地～649Mピーク	伐採整備	2	2
3	1月16日	実施	8:00	14:00	649Mピーク～563M	伐採と下草刈り	1	1
4	1月23日				休養日	降雪のため中止(標識板作成開始)	1	
5	1月31日	実施	8:30	14:00	563M～	伐採	8	
6	2月6日	実施	8:30	13:00	鉄塔尾根取り付け点の確認と分岐までの整備	伐採	5	1
7	2月7日				休養日	標識板仕上げ	1	
8	2月11日	実施	8:30	14:00	31日の作業終了点より上部の笹帯まで	間伐木の撤去	7	
9	2月13-14日				休養日	標識板仕上げ	1	
10	2月19日	実施	15:00	16:00	鉄塔尾根取り付け整備	取り付け点整備と鉄塔整備道までの竹撤去	1	
11	2月27日	実施	8:30	12:00	直登尾根整備	健脚コースとして整備(補助ロープ敷設)	2	
12	2月28日	実施	9:00	12:00	炭焼き窯観察路の整備	ベンチ取り付けから炭焼き窯跡まで	2	
13	3月3日	実施	9:00	13:00	整備道の撮影とタイム記録	鉄塔尾根～自然観察路～分岐～急登尾根～ベンチ	1	1
14	3月4日	実施	18:00		野河内駐車場にてキャンプ	5日の準備など	3	
15	3月5日	実施	9:00	15:00	標識版を設置(お疲れさん会)	①鉄塔尾根取り付けに標識設置 ②ベンチ尾根取り付けに標識設置 ③自然歩道合流点に標識設置 (お疲れさん会)		
16	3月26日	実施	9:00		休憩地の整備	杉丸太イスを休憩地へ荷揚げ・設置	2	
17	4月6日	実施	9:00	12:00	休憩地の整備	杉丸太イスを休憩地へ荷揚げ・設置	1	

18	4月21日	実施	8:40		休憩地の整備	杉丸太イスを休憩地へ荷揚げ・設置	1	1
19	4月30日	実施	9:00		分岐点の整備	分岐の標識に(中級・訓練コース)を追加	1	1
20	5月7日	実施	9:00		登山口の整備	野河内溪谷内の尾根取り付きに(中級・訓練コース)を追加	1	1
21	5月11日	実施			三瀬	挿し木用の孟宗竹植木鉢を試作	1	
22	5月12日	実施	休養日			竹鉢にサンプルを挿し木	1	
23	5月14日	実施	10:00		筒井氏の竹林	野河内にて竹鉢切り出し	4	1
24	5月15日	実施	12:00		三瀬	曲淵小学校児童用の竹鉢切り出し	1	
25	5月20日	実施	18:00		野河内	植栽予定地の再踏査	2	
26	5月21日	実施	10:00		平尾	植栽樹保護用の麻袋の受け取り	1	
27			11:00		野河内溪谷	入溪地から水無までの溪谷内点検・整備と撮影	3	
28	5月22日	実施	休養日			孟宗竹植木鉢を追加切り出し	1	
29								
30								



急登尾根の標識に（中級・訓練コース）の表示板を追加して、整備作業を基本的に完了。

孟宗竹が伐採された鉄塔尾根道の登山口と尾根末端までの斜面。

『往還の尾根道と野河内の自然環境を整備する登山者と市民の会』（野河内往還の会）として、鉄塔尾根登山口とその周辺の伐竹跡地（下記の写真）の整備を継続し、この尾根道が今後も愛されるルートとして定着するようにする。

